

事業完了報告書（岸和田市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月26日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>・中学校教育を実施するために必要な日本語指導の在り方</p>
調査研究のねらい	<p>岸城中学校の在籍者数72名のうち、日本人が7名（フィリピンからの帰化3名を含む）である一方、日本国内での仕事を求める外国人が増加することに伴い、夜間学級における外国人の在籍者が占める割合も増えていることで、夜間学級の役割が大きく変わってきている。今後の多文化共生社会の形成のため、地域社会の中で、互いに置かれた立場を考え、理解し、認め合って生活していかなければならない。</p> <p>本事業を活用することにより、就労しながら学習を続けている生徒たちの努力や夜間学級の現状等を改めて広く周知し、生徒のエンパワメントに繋がる以下の取組みを推進したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国籍、年齢、学習経験等、多様な生徒に対応できる教育課程や学習指導法を調査研究する。 ② 生徒の持つ文化的背景（言語、宗教、食事、生活習慣など）を知ることや多文化理解を深めた研修・研究を充実させることで、教職員の専門性を高めるとともに、指導力の向上を図る。 ③ 生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めるため、学習指導だけでなく、様々な学校行事を行う。特に、異なる文化的背景をお互い理解し合えるような行事の実施を推進する。さらに、行事の内容を工夫し、どの生徒も理解し、取り組むことができるような調査研究を行う。 ④ 1人1台配付されているICT機器を、高齢者や外国人が積極的に活用できる指導方法を研究する。
調査研究の成果	<p>本年度も、9割の生徒が外国籍で、多国籍化（16ヶ国）が進んでいる。また、若年層の生徒が増加したことにより、生徒の平均年齢は以前に比べて下がる傾向にある。さらに、英語圏ではない生徒が増加したことにより、以前と比較して、より個に応じたき</p>

め細かい指導の必要性が高まっている。そこで、以下の観点をもとに指導の充実と調査研究を実践した。

○個に応じた指導体制の整備

- ・生徒個々の教育的ニーズに対応できるよう、入学時の面談では、一人ひとりの課題や目標を適切に把握することに努めた。また、本校が独自に設置している各学習コースについて、可能な限り複数の教員を配置し、丁寧な指導体制の構築を図ることができた。

○学習指導の充実

- ・小中学校の国語の学習指導要領を基本として、日常的に使用する日本語を簡易に表現したものを活用し、学習した内容を日常生活に生かせる教材を取り入れたことにより、学習に対する興味関心を高めることができた。
- ・学習者用端末を授業で頻繁に活用することで、生徒の興味関心をより高めることができた。また、情報教育担当者とICT支援員による教職員対象研修を行うことにより、授業でのICT活用促進に資することができた。

○校内連携による指導の充実

- ・進学を希望する生徒（本年度は5名）に対して、授業前に個別指導に取り組んだ。また、大阪府教育委員会から配置された日本語指導支援員が、生徒の学習の進捗状況を教職員と共有することにより、より連携して指導を行うことができた。さらに、日本語指導支援員が教材を紹介するなどして教職員全体の指導力向上を図ることができた。
- ・研究部主催の研究委員会を毎月実施し、生徒一人ひとりの国語(日本語)の指導状況や習熟度を確認し、教職員全体で共有するように努めた。また、使用教材の情報を共有するなどして、具体的な指導に生かすことができた。
- ・毎月1回、生徒指導部主催の「情報交換会」を開催し、生徒の出席状況、家庭や就労の状況等をより細かく報告し合い、共有と連携を推進することができた。

○公開授業等による夜間学級の周知

- ・9月14日(木)
貝塚市人権教育研究会(多文化共生部会)が、研修の一環として本校夜間学級を見学。貝塚市の小中学校教員18名が参加。

- ・ 10月26日（木）、27日（金）

オープンスクールを設定し、本市教育委員会及び市内小中学校の教職員に案内。14名（26日）25名（27日）が参加。

- ・ 2月15日（木）～21日（水）

市役所内ロビーにおいて、生徒が制作した作品を展示。夜間学級の紹介ポスターも掲示し、周知に努めた。

上記活動以外では、年間を通じて来年度夜間学級開校予定の泉佐野市教育委員会と連携し、開校にあたっての助言と夜間学級の周知に努めた。

以上のような活動を通じて、夜間学級の存在と実情を周知することができ、また潜在的な入学希望者(対象者)を掘り起こす広報活動の一環としても有意義であった。

○人権教育等の推進

教員をA・Bの2チームに分け、年間2回の研究授業を実施した。

- ・ 7月12日（水）

「福祉体験を通して、人や社会に対して優しい目、人を思いやる気持を育もう。」を主題として、Aチームが授業実践。

内容は、「点字の紹介（紙幣・牛乳パック・シャンプー等々）」「ユニバーサルデザインの紹介」「点字体験」「白杖・アイマスク体験」等。

絵本や写真、イラストなど視覚に訴える資料提示を積極的に行いながら、日本語の理解が十分でない生徒にも伝わるように工夫した。また、実際にアイマスクを使用して白杖を持ち点字ブロックの歩行を体験させる等で、生徒の人権感覚や意識の向上を図ることができた。

- ・ 11月29日（水）

「日本の基本的人権と義務教育、本校の夜間学級の成り立ちを知る機会とし、学ぶことや学ぶ場としての夜間学級のこと、卒業後の進路についての視野を広げる学習会としたい。」を主題として、Bチームが授業実践。

内容は「基本的人権と義務教育の説明」「夜間学級で学習する意義」「学校で学んだ学力や情報を活用し人生設計に役立てる一つとして在留資格を考える」「卒業生2名から

の話」等。

パワーポイントを駆使し、生徒が理解できるよう、各言語に翻訳する等、労力を費やした。事前に入出国管理局の研修を受けていたこともあり、生徒にはより詳しく説明できた。

○教職員研修の充実と指導力向上

・ 8月30日（水）

本校非常勤講師の藤田妙子による研修「日本語指導について」7年間の夜間学級での日本語指導についての考察・夜間学級の課題・日本語の初級の学習分析等の講話と教員との意見交流会を実施。今後の日本語指導について非常に有意義であった。

・ 9月4日（月）

合同会社ADFECK（アデフェック）代表社員の古田朋美氏による「日本語教育に関する研修」日本語を教えるとはどういうことか・音声・文字について・日本語の基礎と日本語教育の基礎・日本語学校の授業システム・指導の際の留意点等、日本語を教えるのに役立つ内容が盛りだくさんであった。教員からは、「今後も古田先生の研修を継続してほしい」という感想が多数あり継続を検討したいと考える。

・ 10月25日（水）

大阪出入国在留管理局の若村信一郎氏による「在留資格等の研修」在留資格については勿論、外国籍の中高生が将来就職して働くためには？大学に進学して就職するためには？等、将来や進路に関わる講話を聞くことができ、今後の相談体制に有効であった。

・ 11月28日（火）

本校非常勤講師の宮崎慶子による研修「夜間中学生への進路指導について」を実施。元成美高等学校の講師としての経験も踏まえ、外国にルーツを持つ生徒の入学者選抜について考えることができる内容となった。

・ 12月1日（金）、2日（土）

第69回全国夜間中学校研究大会（奈良大会）に全教員が参加し、夜間中学校の現状や課題、果たすべき役割を理解することができ、教員全体の指導力向上に生かすことがで

きた。

○行事の充実

- ・ 5月14日（日）

近畿夜間中学校新入生歓迎会（あましんアルカイクホールオクト）への参加後、春の校外学習を実施。難波周辺で昼食・散策。他国や自国の文化に触れ見識を深められた。

- ・ 9月22日（金）

校内運動会を本校体育館で実施。コロナ以前に行っていた種目を実施することができた。

- ・ 10月15日（日）

近畿夜間中学校連合運動会（守口市民体育館）に参加。生徒の生き生きとした姿が見られるとともに、他校の生徒との交流も図ることができた。

- ・ 11月23日（祝）

秋の校外学習（京都方面）を実施。伏見稲荷大社では、千本鳥居や、次に訪れた太秦映画村では日本の古き時代の景色や忍者ショーを見学。生徒同士や生徒と教員間の相互理解や、日本文化の理解を深めることができた。

- ・ 12月13日（水）

「料理教室」を実施。各国独自の料理を調理し、多文化理解に繋げているが、今年度は「たこ焼き」を調理し交流を図った。

- ・ 2月18日（日）

近畿夜間中学校連合作品展に出展。本校生徒の作品は、他校の生徒や教職員からも非常に好評であった。

- ・ 3月6日（水）

卒業生（今年度は5名）を送る会として「お別れ会」を開催。音楽の授業で取り組んだ各コースの合奏やダンス、有志による歌やダンスを発表し合った。生徒の異なる文化的背景を相互に理解する場となった。

○冊子の作成と活用

- ・ 学習のまとめとして、文集「希望」第46号を作成。生徒自身の生い立ちや感じていることなどを日本語で表現することにより、これまでの学習成果の確認と振り返りに資することができた。

- ・ 自分の書いた作文を「希望を語る会」（2月14日）で発表

	することにより、日本語でのスピーチ力向上を図るとともに、お互いを尊重し合う雰囲気を醸成することができた。
--	--